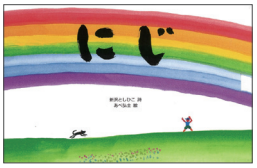
episode 26　心が雨模様の日に一人で読む絵本

投稿者　みわ さま（兵庫県）



『にじ』
新沢としひこ 詩
あべ弘士 絵
アスク・ミュージック　1996年

自分のためにしか読まない絵本があります。
20年余り続けている読み聞かせ活動でも、子育ての中でも、誰かと一緒に読むことができなかった絵本です。
どうしても涙が溢れてしまうから。

『にじ』という、歌を表現した絵本です。1991年に発表されて以来、幼稚園などで歌い継がれています。
我が家の娘も幼稚園で歌い、覚えてきました。
娘が歌う「にじ」を初めて聞いた時、言葉が胸に染み込んできて、目頭が熱くなりました。
幼い娘が、私を励ましてくれているように感じたのです。

当時、私は孤独のどん底でした。
引っ越してきたばかりの慣れない土地で、小1・年少・2歳の3人の子を抱えて、ワンオペ育児。
娘の幼稚園では、ママ友付き合いにつまずき、挨拶さえ無視されるような辛い毎日。
親しい友人もなく、実家も遠い。
夫は仕事が多忙な時期で、私に対して暴言や暴力もあり、いつも息を潜めて暮らしていました。

真っ暗闇の中にいるような気持ちで過ごした数年間、
ある日、幼い娘が口ずさんだ「にじ」は、弱り切った私の心に優しく優しくエールを送ってくれたのです。

後に、この歌の絵本があると知り、手に取ってみると、歌詞にピッタリの挿画！
魅かれたのは、見開きの端から端まで架かる虹。七色の光に吸い込まれていくようです。
雨の後には虹、そして晴れ。読むたび前向きになれます。

今では、すっかり反抗期の3児。童謡を口ずさむ可愛らしさもなくなり（笑）、新たな大変さを感じています。
子育て以外にも苦しい時や悲しいことがやってきます。そんな心が雨模様の日には、この絵本を1人眺めます。
娘の歌声を思い出しながら。やっぱり泣いてしまうけれど、後には必ず虹が架かります。
きっと明日はいい天気！

「絵本の日アワードin FUKUOKA 2020」投稿作品より

本連載は「医療法人元気が湧く」が主催する“絵本の日アワード”に応募された作品を掲載していきます。毎年、300～450編の応募がある「絵本にまつわるエピソード」の作品から、「絵本の魅力」と「絵本のチカラ」のつまったエピソードを選び、その魅力と感動を読者の方々にも共有していただきたいと願って、投稿者の了解を得て紹介しています。
さらに、人に影響を及ぼした絵本のバックグラウンドについて、司書の専門的な視点による解説を加え、一冊の絵本をある部分では“深く”、そしてある部分では“広く”、興味を広げていただきたいと企画しました。

みどころ① うつくしい装丁

縦14cm、横22.7cmの小さな表紙の半分に弧を描いた鮮やかな虹と、その七色を背景にしたためられた毛筆字体の「にじ」からなる画像は、小ぶりながらダイナミックな装丁です。

表紙には、開き側の中央にリボンが付いていて、裏表紙にも同じリボンがあります。表紙と裏表紙のリボン２本を結ぶと、それはスケッチブックと同じ装いになるのです。その名も「スケッチブック絵本」シリーズという本書の装丁は、芸術性を高めています。

シリーズの先陣を切って、『にじ』は1996年、音楽制作会社のアスク・ミュージックより出版されました。そもそも、音楽制作会社がなぜ絵本を出版しているのでしょうか。それは、シンガーソングライターであり、絵本作家でもある新沢としひこ氏の事務所だからです。『にじ』の作者は、その新沢氏なのです。

「世界中のこどもたちが」を代表曲とする新沢氏は絵本界においても、この歌の歌詞を文とした同名の写真絵本を代表作としています。

みどころ② ピクチャーソングブック

「スケッチブック絵本」シリーズ４作は、すべて歌から生まれた絵本になります。『にじ』もまた、絵本ソングブックなのです。

楽曲「にじ」が発表されたのは、遡ること35年前の1991年でした。クレヨンハウスが創刊したばかりの月刊誌「音楽広場」(現「月刊クーヨン」の前身)に、シンガーソングライターの中川ひろたか氏が、子どもの歌の連載を依頼されたことにはじまります。相棒の作詞家を失ったばかりの中川氏が声をかけたのは、保育士時代の後輩である新沢氏でした。1987年からはじまったこのコンビによる楽曲制作は、子どもの歌の世界を一新する作品を続々と発表するのです。

８年間続いた連載「新しい子どもたちの歌」で、４年目に発表されたのが「にじ」でした。発表から今日まで、保育の現場や小学校で歌われ続け、特に多くの園児たちと保育者たちに愛されている童謡です。

30年以上歌い継がれるうちに、「にじ」は童謡という枠を超え、コマーシャルソングとして使われたり、ドラマのなかで歌われたりするようになりました。良い物語は、ストーリーと絵が補完し合うか、曲と補完し合うかの違いこそあれ、対象となる子どもたちが評価すれば、長く愛され続けるということです。絵本も童謡も同じなのです。

みどころ③ ３人の絵本おじさん!?

子どもたちに愛され、歌い継がれる「にじ」のファンは子どもだけではありません。前職を旭山動物園の飼育員とする絵本作家・あべ弘士氏もまた、この歌が大好きな一人でした。そのあべ氏が、新沢氏の詞から想像をひろげた「にじ」の世界を描き、歌の発表から５年後に絵本という表現形態で再デビューするのです。

詞を絵本にするのは、「難しいようで優しいようで難しい」と、あべ氏は語っています。文章があまり余計なことを書いていないので、絵を描くときは自由だけど、そこに難しさもあると言うのです。たとえば、「くもがながれて」の７文字で見開き２ページの絵を描かなくてはいけないというわけです。最小文字数では、「にじが」の３文字で２ページを表現しなければなりませんでした。

あべ氏なりに詞のイメージを膨らませて完成させた絵本『にじ』は、楽曲「にじ」とはまた別の芸術作品になっています。

元保育士と元飼育員の男性３人が、子どもの芸術の世界に一石を投じる姿は、未来への希望を感じずにはいられません。

文献

1）クーヨン編集部：「にじ」が生まれて30周年！記念対談 新沢としひこさん（作詞）×中川ひろたかさん（作曲），月刊クーヨン 25(4)，pp.12-13，2020.
2）あべ弘士：あべ弘士しか知らない 絵本『にじ』のもう一つの物語，あべ弘士チャンネル（You Tube） https://www.youtube.com/watch?v=EZo8-5ErDNE